

高石垣

渉成園の入口付近にあるこの飾り壁は、1858 年と 1864 年の火災で建物を失った後、園内の瓦礫から集められた大小さまざまな石や瓦などの建材で作られている。石の多くは、高温にさらされて変色したり、歪んだりしている。

壁の近くには、枳殻（きこく）の小さな垣根がある。枳殻は古くから渉成園のシンボルであり、庭園の愛称である「枳殻邸」の由来にもなっている。枳殻は、その密度の高さと曲がった強い棘から、古くから防壁植物として用いられてきた。17 世紀中頃、東本願寺の門首の隠居所として渉成園が設立された際、侵入者を防ぐために周囲に植えられた。